

高等部研究部会

- 1 高等部の研究について
- 2 年間計画
- 3 普通学級の日課表
- 4 作業学習について
- 5 作業学習学習指導案
- 6 まとめと今後の課題

資料 作業連絡会内容シート

1 高等部の研究について

高等部研究テーマ 「生徒が主体的に取り組むことのできる作業学習を目指した授業」を考える

高等部では作業学習で研究に取り組み6年目であり、上記の研究テーマに変更して2年目である。昨年度末に成果と共に3つの課題（「単元の盛り上げ方の工夫」「作業連絡会の充実」「全作業班への講師助言」）があげられた。今年度はこの課題への取り組みを意識しながら、生徒が主体的に取り組む作業学習について研究を進めてきた。

（1）研究のねらい

- ・作業学習を通して、主体的に働く意欲を育てる。
- ・多様な生徒の実態にあった主体的に取り組むことのできる作業学習の展開をめざす。

＊『主体的に取り組む』のとらえ方

「活動内容がわかり自分から取り組む姿であり、持てる力を十分発揮している姿」

（2）研究の進め方

- ① 一人一人にあった作業学習実践のため、各作業班は単元事前事後に以下の「5つの観点」で話し合いを持つ。

- ＜5つの観点＞
- ・作業学習に取り組むための環境
 - ・取り組みやすい道具、補助具
 - ・生徒にとってわかりやすい具体的な目標を設定
 - ・単元としての盛り上がりを作る
 - ・教師の関わり方を工夫する

- ② 作業連絡会を年2回実施し、学級担任と作業担当者間で生徒理解を深め、よりよい授業実践を図る。
今年度より「作業連絡会内容シート」を活用し、話し合いの観点を明確にして充実を図る。

- ③ 授業研究会を年2回実施する。部内研究会・全校研究会とも展開班は1班とし、指導案検討は学部全体で行う。また展開班以外も含め、全ての作業班が講師助言を受けられる機会を作る。

- ④ 授業研究会の学習指導案のうち1つと今年度の研究のまとめを実践報告集にまとめる。

2 年間計画

5月18日, 5月25日	第1回作業連絡会 *1日に4作業班行い、2日で全班完了。
10月26日(水)	部内研究会 授業展開：木工班 講師 小倉京子先生（千葉県教育庁教育振興部特別支援教育課 指導主事）
11月22日(火)	全校研究会 授業展開：陶芸班 講師 小倉京子先生（千葉県教育庁教育振興部特別支援教育課 指導主事）
11月30日, 12月7日	第2回作業連絡会 *1日に4作業班行い、2日で全班完了。

3 普通学級の日課表

曜 日	月	火	水	木	金	(分)
時 刻						
	自主通学生登校 8 : 3 0 ～ 8 : 3 5 着替え 8 : 3 5 ～ 8 : 4 5 校内清掃 スクールバス生登校 8 : 5 0 ～ 9 : 0 0 着替え					
9 : 0 0 ～ 9 : 2 0	日常生活の指導（ホームルーム）					20
9 : 2 5 ～ 1 0 : 1 5	保 健 体 育 自立活動（身体の動き）				音 楽	50
1 0 : 2 5 ～ 1 1 : 1 5	作 業 学 習				職 業 家庭 自立活動	50
1 1 : 1 5 ～ 1 2 : 0 5	作 業 学 習					50
1 2 : 0 5 ～ 1 2 : 5 5	日常生活の指導（給食・休憩）					50
1 3 : 0 0 ～ 1 3 : 5 0	課 題 学 習 (国語・数学・自立活動を合わせた指導)			選択教科	特別活動 部集会	50
1 4 : 0 0 ～ 1 4 : 3 0	日常生活の指導（清掃・着替え・ホームルーム）					30
下 校						

【部活動】運動部および文化部：基本は月～木の4日間で自主通学生の希望者が所属する。

4 作業学習について

知的障害のある生徒を指導している本校では、各教科等を合わせた指導である作業学習に教育課程上多くの時間を割いている。

週日課表からもわかるとおり、週予定時間30校時（1校時50分授業）のうち、8校時分を作業学習に充てている。作業学習の目標については、以下の3点に定め、目標実現のため実践を行っている。

- ・働くことに意識を持ち、自らの生活を作り上げていく力を育てる。
- ・卒業後の生活に視点をあて、生徒一人一人の実態や課題を明確にし、自ら考え進んで働く力を身につける。
- ・産業現場等における実習を通して生徒の課題を明らかにするとともに、進路選択の基盤を養う。

今年度の高等部作業学習は、木工班、染色班（牛乳パックを使った紙すきや布を染めた製品）、手芸班（手織りと布製品）、工芸班（ビーズアクセサリ）、陶芸班、農工班（野菜栽培と加工食品）、栽培班（花苗やしいたけの栽培）、クラフト班（クラフトテープを使った編みかご）の8班体制で実施している。また、実施上の留意する事柄として、以下の4点を学部内で確認し、授業を進めている。

- ・1～3年生の縦割りグループで実施する。
- ・単元化を図り、販売会前の1週間程度は1日作業学習を実施する。
- ・校内実習や販売会当日（とみよう祭を含む）や販売会集会も作業学習に含む。
- ・重複学級、訪問学級の生徒も作業班に所属し、生徒の実態にそって学習に参加する。

5 作業学習学習指導案

高等部 作業学習 木工班 学習指導案

日 時	平成28年10月26日(水) 10時25分～12時05分
授業場所	高等部作業棟 木工室
指導者	T1、T2、T3、T4

1 単元名 「178個の製品を作ってレインボーショップで販売しよう」

2 学習集団について

木工班は、1年生4名、2年生5名、3年生5名（男子8名、女子6名）の計14名で構成されている。木工機械や道具の使い方を理解し、作業手順を守って作業に取り組むことのできる生徒から教師の支援を受けながら時間いっぱい作業に取り組むことのできる生徒など、作業面における実態の幅は広い。また、コミュニケーション面についても、必要に応じて報告や相談を具体的に伝えることのできる生徒、決まったやりとりで報告のできる生徒など、実態や課題等は様々である。

木工班では、木工機械や補助具を使用して、木材の製材から加工、組み立てまでを主な作業内容として製品作りを行っている。1つの製品を完成させるまでに、たくさんの工程が必要となるため、一人一製品を製作するのではなく、かんながけ、切断、面取り、穴あけ、組み立て等に分業で取り組んでいる。担当する工程は、年度当初に生徒の様子や実態に合わせていくつかの工程を体験させてから決定した。木工班では「丁寧な製品作り」という部分を重点として製品作りに取り組んでいる。質の高い製品を作るために、実態等の変化に応じて1学期の途中から担当工程を変更することもあった。また、全員でどのような製品が質の高い製品であるのかを確認し、自分の担当する工程では、どんなことに気をつけて製品作りを行えばよいのかを担当教師と相談しながら個人目標を設定した。作業を進めていく中で、はじめのうちは使用する材料の節や色、傷などから表面を決める判断の誤り、釘打ちの際に部材を傷つけてしまう、面取りを必要のない面までも行ってしまう等の失敗も多くあった。毎日作業日誌でその日の反省を行い、担当教師と次回の注意点を確認することによって、次第に失敗は減っていった。現在では、それぞれの目標を意識して、作業に取り組む生徒が増えてきている。

3 単元について

高等部では、7月の「サマーフェスタ」、11月のとみよう祭で実施する「レインボーショップ」、2月に校外で実施する「ワクワクフェスタ」といった年間3回の販売会が計画されている。本単元は、今年度2回目の販売会である「レインボーショップ」での販売を目指し、製品作りに取り組む単元に当たる。

サマーフェスタでは、自分たちが作った製品を手にとってもらったり、「素敵だね」と声を掛けてもらったり、製品を購入してもらったりする経験を通して、製品を作って販売する楽しさ、製品が売れていく達成感、お客様に称賛の言葉をいただける喜びを体験した。また、製品の売れ行きを実際に見たり、お客様の声を直接聞いたりすることによって、「この製品をたくさん作った方がいい」、「こんな製品だと、もっとお客様に購入してもらえる」、「お客様が欲しいと思う製品を作りたい」と、2回目の販売会へ向けての作業に対する意欲や目標を自分なりに考える生徒が出てきた。

本単元では、単元のはじめにサマーフェスタでの反省や販売会を通して感じたことを発表し合い、

販売会の中で実際に耳にした「すのこラックに引き出しBOXが全部入っていれば買うのにな」、「黒のしまっチェアーがもっと欲しいな」などのお客様の声を知ることができた。お客様の声を知った上で、レインボーショップでの販売会に向けてどのようにしたらお客様の声や自分たちが感じたことを活かした製品の製作や販売活動ができるかをさらに話し合った結果、「サマーフェスタよりたくさん売りたい」、「たくさん製品を作りたい」という意見が多く出てきた。そのためには自分の担当工程ではどれくらいの個数や量を生産しなければならないかを教師と相談し、具体的な個人や工程ごとの1日、1週間、単元での目標を設定した。個々の目標を照らし合わせると、全部で178個の製品を製作すれば目標が達成されるということがわかった。そこで、レインボーショップでの目標を「178個の製品を作って販売しよう」とし、製品ごとに製作する目標個数も決めた。しかし、木工班は分業で製品作りに取り組んでいるため、かながけや切断、面取りといった直接製品の組み立てに繋がらない工程も多く、製品の完成数や毎日の作業での目標個数を設定しにくい部分もある。そのため、個数が設定しにくい工程では、1日の作業で生産する目標を部材が入った缶の数で設定するようにした。また、かながけや切断、面取りといった工程は、ほとんどすべての製品の製作に携わっているため、完成した製品数での達成感も感じることができるようになりたいと考え、全員が常に把握できるように掲示スペースを作業室の中に設けた。木工班全体で、現在どれくらいの製品ができあがっているのか進捗状況を毎週末の反省会で報告し合うことで、班全体でのレインボーショップへ向けての一体感や単元としての盛り上がりを作り、製品作りに対する意欲へとつなげていきたい。また、木工班では、目標に向け努力する姿が主体的であると考え、目標を達成する喜びや充実感を感じるとともに、卒業後に活かせる働く力を身につけてほしい。生徒がサマーフェスタや製品作りを通して感じたことや気付いたこと、「こうしたらいいのではないか」、「やってみたい」という思いや考えを大切にしながら、主体的に作業に取り組む力を伸ばしていきたいと考えている。

4 単元の目標

- ・レインボーショップに向けて、178個の製品を製作することができる。
- ・製品の出来栄を意識し、作業手順に沿って、安全に製品作りに取り組むことができる。

5 指導計画

(1) 計画を進める上での工夫

＜「一人一人にあった作業学習に向けての取り組み」について＞

①作業学習に取り組むための環境

- ・工程ごとに道具箱や補助具置き場、材料置き場を用意し、道具や補助具、材料を自己管理できるようにする。
- ・卓上丸鋸、トリマー、卓上ボール盤等の取り扱いは、カバーや補助具を付けて、安全面に十分注意する。
- ・作業着や手袋、マスクなどの着用を授業開始時に確認し、安全面や健康面に配慮する。

②取り組みやすい道具、補助具

- ・使用する材料を見通しが持てるように、必要な本数毎にまとめておく。
- ・個人の道具箱を用意し、作業に必要な道具をまとめておく。
- ・従来からある補助具や道具が、生徒の実態に合っているか見直し、必要に応じて改良する。
- ・道具の置き場を決めておく。

③生徒にとってわかりやすい具体的な目標を設定

- ・班全体の単元目標や個人の単元目標などを具体的に設定する。
- ・目標を意識するために、製品の出来高表を掲示する。

④単元としての盛り上がりを作る

- ・単元開始時に目標製品数を決め、掲示する。
- ・出来高表を確認し、製作意欲を高める。
- ・完成した製品を、できる限り見える場所で保管する。

⑤教師の関わり方を工夫する

- ・教師と生徒と一緒に作業をすることによって、作業姿勢や技術の手本を示す。
- ・報告や相談するタイミングをあらかじめ決めておき、生徒が自発的に行動できるような関わりを意識する。

(2) 日程計画

月	日	学習内容	備考
9	5 (月) ~ 8 (木)	○サマーフェスタの振り返り ○目標の設定 ○製品作り	
	12 (月) ~ 15 (木)		
	20 (火) ~ 21 (水)	○とみよう祭導入集会 9 / 21 (水)	
	26 (月) ~ 29 (木)		○後期産業現場等における実習開始
10	4 (火) ~ 6日 (木)		
	11 (火) ~ 15 (土)	○校内実習期間	○印旛郡市特別支援教育振興大会 10 / 12 (水)
	18 (火) ~ 20 (木)		
	24 (月) ~ 27 (木)	●本時 10 / 26 (水)	
11	31 (月) ~ 4 (金)		○富里福祉まつり 11 / 3 (木)
	7 (月) ~ 11 (金)	○販売準備 ○直前集会 11 / 10 (木) ○プレ販売会 11 / 11 (金)	
	12 (土)	とみよう祭当日 (販売活動)	
	15 (火) ~ 17 (木)	○後片付け ○事後学習 ○事後集会 11 / 15 (火)	

6 本時の指導

(1) 本時の目標

- ・1日の具体的な目標を達成することができる。
- ・作業手順に沿って安全に製品作りに取り組んだり、必要に応じて報告や相談をしたりすることができる。

(2) 展開

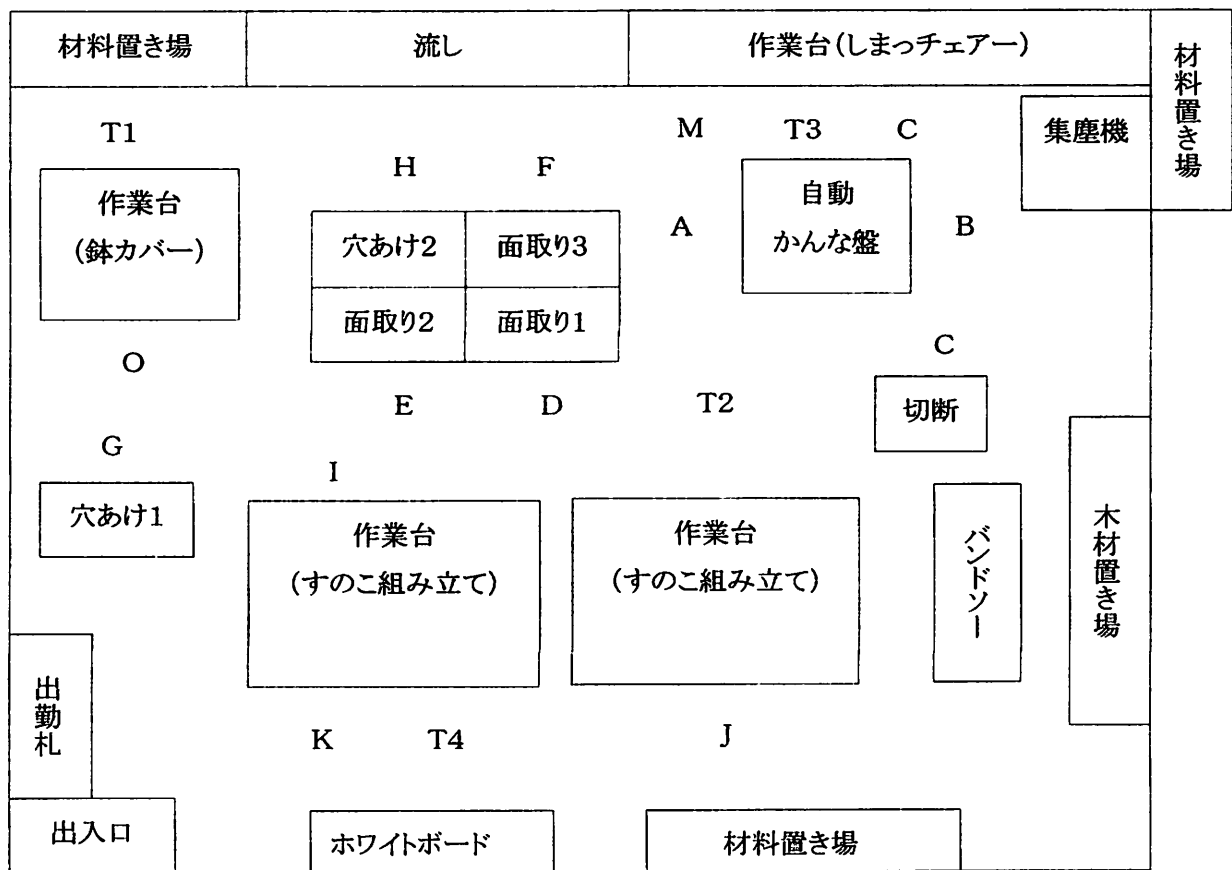
時配	生徒の活動	支援上の留意点	教材等
準備	○あいさつをして入室する。 ・出勤札を反す。 ○作業着を着たり、マスクを用意したり、身支度を整える。 ○窓やカーテンを開けて、作業をすぐに始められるよう準備をする。	・必要に応じて、大きな声やわかりやすい態度でのあいさつを促す。 ・開いていない場合に、全員に向けて促しの言葉をかける。	作業着 マスク 手袋
5分	○はじめのあいさつをする。 ・出席確認では、名前を呼ばれたら大きな声で返事をする。 ○本時の作業内容について確認する。 ○木工班の約束を全員で唱和する。	・ホワイトボードで、自分の担当工程を確認できるようにする。 ・教師が1項目ずつしっかりと唱える姿勢を見せる。(T2)	ホワイトボード 木工班の約束
6分5分	○担当の仕事をする。 ・各工程の担当教師と服装の確認を行う。	・自分でチェックするように促し、気付かない様子が見られたときは、必要に応じて言葉をかける。	
	かんながけ (A、B) (T2) ○自動かんな盤で製材する。 ・マスクと革手袋、イヤーマフを着用する。 【送り手】 ①ブローアを準備する。 ②自動かんな盤のメモリを合わせる。 ③木材を送る。 【受け手】 ①集塵機のホースを繋げる。 ②流れてきた木材を積み上げる。 ③木材を缶に入れる。	・必ず着用するように促す。(T2) ・安全面の確認をする。(T2) ・担当工程を忘れている場合は促す。(T2) ・木屑が溜まったら、ブローアをかけるように確認しておく。(T2)	革手袋 イヤーマフ 自動かんな盤 集塵機 ノギス ブローア
	切断 (C) (T2) ○卓上丸鋸で製材する。 ①木材の汚れや節を確認して、切断部分を判断する。 ②必要な長さに木材を切断する。	・安全面の確認をする。(T2) ・木屑を取り除きながら切断するように促す。(T2)	卓上丸鋸

面取り (D、E、F)、(T 1)、(T 2) ○トリマーで材料の角を削る。 【面取り 1】 ①材料の汚れや節を見て、面取りする部分を判断する。 ②補助具に材料をはめ込み、スライドさせ、面取りを行う。 ③材料を缶に入れる。 【面取り 2】 ①面取り 1 で行われた材料の面取りを行う。 ②補助具に材料をはめ込み、スライドさせ、面取りを行う。 ③材料を缶に入れる。 ○ベルトサンダーで材料の角を削る。 【面取り 3】 ①材料 10 本が入っているカゴを準備する。 ②材料の赤い印が付いている面をベルトサンダーで面取りする。 ③10 本終わったら、機械を止めて教師に報告へ行く。 ④次の材料 10 本が入ったカゴを教師から受け取る。	・安全面の確認をする。(T 2) ・面取りした材料を教師に確認するように伝える。(T 2) ・きれいな面や汚い面について確認する。(T 2) ・安全面の確認をする。(T 2) ・使用する補助具の確認をする。(T 2) ・教師がかごの中に材料を 10 本ずつセットしておく。 ・面取りする箇所に赤い印を付けておく。 ・報告に来ないときには、言葉をかけて促す。(T 1) ・本時の 1 回目の面取りは、確認しながら教師と一緒に取り組む。(T 1)	トリマー 補助具 1 トリマー 補助具 2 ベルトサンダー かご
穴あけ (G、H)、(T 1) ○卓上ボール盤で材料に下穴をあける。 【穴あけ 1】 ①必要な補助具や材料を準備する。 ②補助具 3 に材料を差し込み、両端に下穴をあける。 ③機械を止め、教師に報告する。 ③補助具を付け替える。 ④補助具に材料を差し込み、真ん中に下穴をあける。 【穴あけ 2】 ①材料 10 本が入っているカゴを準備する。 ②材料にペンで 2 箇所、印を付ける。 ③卓上ボール盤を使用して下穴をあける。 ④次の材料 10 本が入ったカゴを教師から受け取る。	・材料を奥までしっかりと差し込むことや木屑が補助具に溜まっていないか注意することを、作業のはじめに確認する。(T 1) ・補助具のセットが正しいか確認をする。(T 1) ・材料の下穴をあける面を教師が判断し、かごの中に 10 本ずつ並べる。 ・材料がずれてしまったり、反対の面が上になってしまったりしていないか確認をする。 ・体調や様子を把握し、安全な活動ができるよう必要に応じて教師と一緒に取り組む。(T 1)	卓上ボール盤 補助具 3 卓上ボール盤 ペン かご

	組み立て ○すのこの組み立てをする。 (I、J、K、L)、(T4) ①道具・木枠・スペーサー・部材(正面材、角材)を準備する。 ②木枠に角材をはめ込む。 ③木枠に正面材とスペーサーをはめる。 ④正面材とスペーサーを外し、正面材にボンドを付け、③を行う。 ⑤正面材に釘を打ち込む。 ⑥木枠から部材とスペーサーを外す。 ⑦余分なボンドを雑巾・紐で拭き取る。 ○しまっチェアの組み立てをする。 (M、C)、(T3) ・箱の側面を組み立てる。 ①補助具4に、側面に必要な部材とスペーサーをはめる。 ②必要な箇所をクランプで固定する。 ③下穴に合わせてインパクトドライバーでビスを打つ。 ・箱を組み立てる。 ①補助具5に、組み立てた側面を固定する。 ②長辺部分の部材をクランプで固定する。 ③下穴に合わせてドリルでビスを打つ。 ④裏返して①～③を繰り返す。 ○鉢カバー (O)、(T1) ①必要な部材や道具を準備する。 ②木枠にスペーサーを入れる。 ③部材を木枠にセットする。 ④部材にボンドをつける。 ⑤釘を下穴に合わせて打ち込む。 ⑥スペーサーを入れ替えながら、③④⑤を必要な段数分繰り返す。	・傷や汚れがついていない部材を選ぶように促す。(T4) ・面取りと釘打ちの穴の位置が正しいかどうか確認するように促す。(T4) ・部材を木枠にはめたときに、ひずみがないか確認するように促す。(T4) ・ボンドの量が適切かどうか言葉かけをかける。(T4) ・釘が奥まで打ち込まれているか、ボンドがきれいに拭き取れているか、生徒と一緒に確認する。(T4) ・報告や相談をするタイミングを授業のはじめに確認する。 ・隙間やゆがみが出ないように、部材を固定できる補助具を用意する。 ・部材やビスの種類を正しく選んで組み立てられるように、手順表を用意する。 ・部材にあらかじめ下穴をあけておく。(T3) ・白木の製品に使う部材と、塗装した製品に使う部材を分けて置いておく。(T3) ・組み立てが1回の授業で完成するよう、前日の片付けの際に、次回の授業で使用する木枠やスペーサーを用意しておくよう言葉をかける。(T1) ・組み立てが1段終わったら、部材の割れや釘の飛び出しがないか自分で確認をするように促す。(T1)	玄翁 釘 ボンド ペンチ 木枠 スペーサー 雑巾 紐 部材 すのこ出来高 補助具4 クランプ インパクト ドライバー 補助具5 手順表 ボンド ビス 雑巾 玄翁 釘 ペンチ 釘抜き ボンド 雑巾 木枠 スペーサー
--	--	---	---

15分	○片付けや清掃をする。 ・班長（D）の声かけで、区切りのよいところで作業を終了し、片付けや清掃を始める。	・作業の進み具合を見て、終わりのタイミングを担当教師と一緒に確認する。	ほうき ちりとり 掃除機 集塵機
15分	○本日の振り返りをし、作業日誌に記入する。 ○終わりのあいさつをする。	・一人で振り返りを行うことが難しい生徒は、教師と一緒に振り返りを行う。	作業日誌

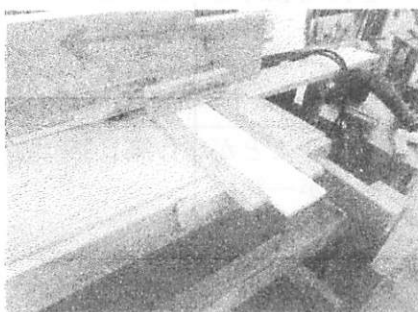
（３）場の設定



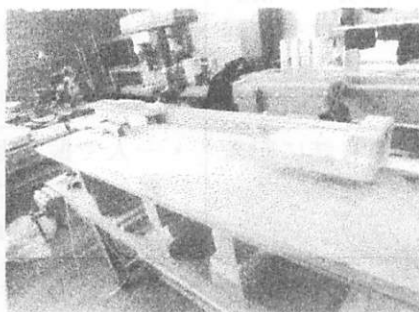
（４）評価

- ・ 1 日の具体的な目標を達成することができたか。
- ・ 作業手順に沿って安全に製品作りに取り組んだり、必要に応じて報告や相談をしたりすることができたか。

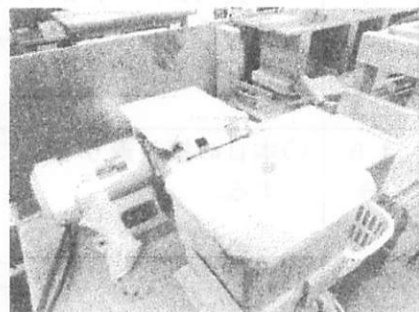
7 資料



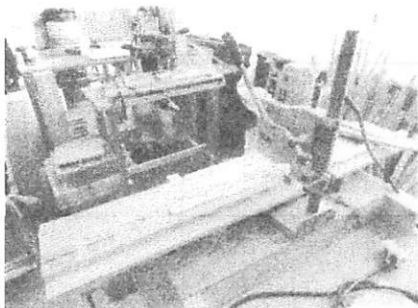
面取り 1 (補助具 1)



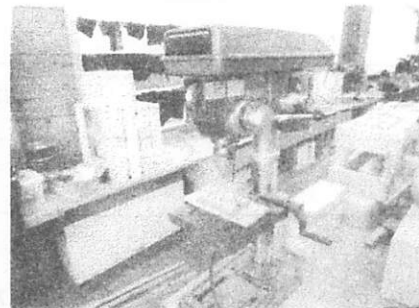
面取り 2 (補助具 2)



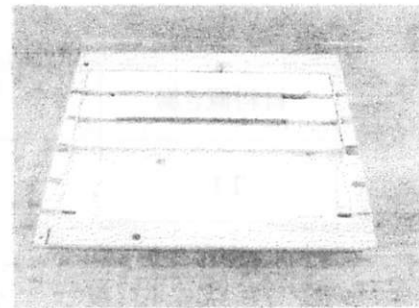
面取り 3



穴あけ 1 (補助具 3)



穴あけ 2



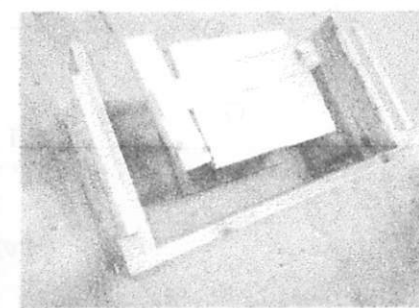
すのこ組み立て
(木枠・スペーサー)



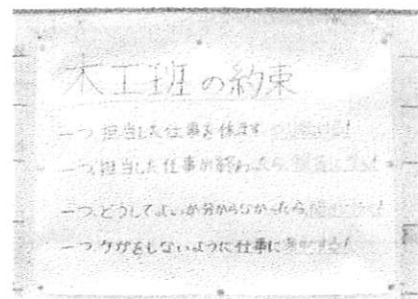
鉢カバー組み立て
(木枠・スペーサー)



しまっチェアー組み立て 1
(補助具 4 : 側面組み立て用)



しまっチェアー組み立て 2
(補助具 5 : 箱組み立て用)



木工班の約束

- 【 木材 】 … かんながけのされていない、表面がざらざらとしている製材前の状態。
- 【 材料 】 … かんながけ後、各製品の規格ごとに切断された状態。
- 【 部材 】 … 各規格に応じた切断や面取り、穴あけが終わり、組み立てに使用できる状態。

6 まとめと今後の課題

(1) 研究の経過

次の3点で研究を進めてきた。

- ① 一人一人にあった作業学習実践のため、各作業班は単元の事前事後に5つの観点で計画と反省の話し合いを持った。 *高16 ページ「(2)各作業班のまとめ」参照
- ② 「作業連絡会内容シート」を活用して、5月と11月末に作業連絡会を行い、学級担任と作業担当者間で生徒理解を深め、よりよい授業実践を図った。 *高21 ページ「資料」参照
- ③ 部内研究会（木工班）と全校研究会（陶芸班）を実施し、5つの観点から高等部研究テーマに沿って授業協議会を行った。事前に指導案検討を学部全体で行い、当日の協議会では展開作業班以外にも講師助言を受ける機会を設けた。以下、部内研究会と全校研究会の協議の概要と講師助言を紹介する。

部内研究会 *作業班ごとに5つの観点で展開授業を協議し、その概要を発表した。その後、講師助言を受けた。

＜協議会での意見・質疑応答 ～5つの観点別に～＞

① 作業学習に取り組むための環境

- ・どの生徒も一人で担当の仕事に取り組んでいたのは、作業環境が整っていたからだと思う。
- ・釘箱など生徒が使う工具箱に記名されていてわかりやすく、使う道具が届く範囲にあったよい。
- ・切断、面取りは木くずの詰まりや粉塵を減らすためにも集塵機をもう少し増やしたい。
- ・出勤札の活用はどの生徒にとっても出勤意識が持ちやすい。仲間意識作りにもつながると思う。
- ・指導案にある安全配慮とは具体的にどのようなことか。

→仕事によっては外しているが、手袋とマスクを原則着用している。切断などの機械はカバーを取り付けて安全に扱えるようにしている。

② 取り組みやすい道具、補助具

- ・どの生徒も教師の手助けなく一人で取り組めるように補助具等が工夫されていた。
- ・組み立てのネジが太い気がする。インパクトドライバーよりもドリルドライバーの方が生徒は使いやすいのではないかと。スノコの組み立て台は高いように感じた。
- ・慣れたら補助具は少しずつ外していくのか。丸鋸盤に安全カバーが付いていたが生産効率が落ちてしまうのではないかと。

→安全補助具については外す予定はない。この部材を切断するためには、カバーや当て木が付いていた方が効率的である。

③ 生徒にとってわかりやすい具体的な目標を設定

- ・単元初めから目標個数が決まっているのがよい。
 - ・気づかなかったが、出来高表はあったのか。出来高表に目標数178個の表示がある方がよい。
- 出来高表はドア内側に貼ってあり、作業室の出入り時に見られるようにしている。できた製品数は前販売会と一緒に折れ線グラフで表している。

④ 単元としての盛り上がりを作る

- ・完成製品が見えるように展示しており、単元が進むほど増えていくので販売会に向けての盛り上がりにつながった。
- ・木工室入口に個人目標が貼ってあり、意欲が高められると感じた。

⑤ 教師の関わり方を工夫する

- ・どの生徒も仕事に集中していた。教師の言葉かけが必要最小限なのがよい。
- ・教師も担当の仕事を持ち、精一杯に取り組んでおり、その姿が生徒の模範となると思った。そうできるのは、生徒が主体的に働いているからなのですばらしい。

<講師助言>

[学習指導案について]

- ・学習指導案がとても丁寧に書かれていて、生徒に何を頑張ってもらいたいのかがわかりやすかった。
178個という具体的な目標もわかりやすい。単元名に製品名も入れて、何を作っているかもわかるようにしてはどうか。長くなるならサブタイトルを付ける方法もある。
- ・生徒の思いを大切に目標数が設定されていて、各グループの目標数が明確にあるのがよい。
目標数だけでなく、できあがった製品数がわかりやすいことも大切である。単元の盛り上がりの面でも重要となる。できあがった製品が積み上げられていくのは励みになるであろう。
- ・「確認」や「言葉かけ」ばかりの手立てにならないようにしたい。道具、補助具の工夫や自分で判断できる状況が整えられていた。教師の言葉かけがなくてもできるようになっていた。
- ・手立てに「促す」の表現が多い。「促す」には急かせる意味合いがうかがえるので、生徒の主体性を大切にしているのであれば、別の表現の方がよいと思う。

[授業や協議について]

- ・手袋はサイズの合ったものでないと危険である。回転する機械では手袋をしないことが基本であり、付けるなら巻き込まれない素材にしなければならない。指先の使いやすさも考慮したい。
- ・授業の始まりと終わりの進行は生徒自身に任せたい。教師が話す必要があるのなら、教師の話す場面を進行の中に入れるようにすればよく、生徒主体の進行にしていくことは可能であろう。
- ・切断で木くずが溜まると吹き飛ばしていたが、木くずが溜まらない工夫が必要である。面取りで焦げてしまうのは補助具の精度の問題である。補助具は外していくべきかが話題となったが、補助具は外すのではなく改良していくと発想したい。また安全で効率的に行うための補助具であるので、作業能力に関係なく誰でも補助具はあった方がよいであろう。特に大事故につながる木工班にとっては、安全面の配慮はし過ぎるということはない。
- ・新しい製品部材棚は生徒にとってだけでなく、教師にとっても不足部材がわかりやすくてよい。
- ・作業ノートを記入しながら、よくできたことを褒めていた。生徒の仕事への意欲となる。
- ・単元の盛り上がりを見ると、日々のとみよう祭準備の進み具合が生徒自身の目に入りたい。本日、「レインボーショップ」の看板が掲示してあった。他の物もできあがったら、すぐに掲示や展示をして、単元を盛り上げるとともに、制作した生徒の励みにしていくとよい。また直前集会の少し前にもう一つ集会があってもよいのではないか。各班の進捗具合や意気込みを発表し合うことで生徒の盛り上がりにつながり、高等部の一体感も高まるであろう。
- ・授業後に作業室から出る生徒たちが「お疲れ様でした」「お先に失礼します」と挨拶して出て行く姿はとても素晴らしい。日頃から行っているからこそ見られた姿であろう。
- ・生徒が主体的に作業に取り組むことは、アクティブラーニングにつながることでとてもよい教育実践である。販売会を目標にすることは、自分たちが作った製品が売れていくことを実体験することで達成感を感じ、主体性を高めることとなろう。今後も生徒の主体性を求めて実践して欲しい。

全校研究会 *学部混在のグループを複数作り、各グループが5つの観点中の1つの観点で展開授業を協議し、その概要を発表した。その後、講師助言を受けた。

<協議会での意見 ～5つの観点別に～>

① 作業学習に取り組むための環境

- ・単元目標がわかりやすく掲示してあった。作業台が低いと感じた。見本製品は良い例だけでなく悪い例もあると注意する点が伝わりやすいと思った。
- ・人数が多く狭いスペースでよくやっていた。作業台上をもう少し整理すると使いやすいと思う。
- ・エプロンが作業室外の扱いやすい所にあった。アームカバーやマスクも着用した方がよいと思う。

② 取り組みやすい道具、補助具

- ・全ての生徒が黙々と作業し、自分の仕事をよくわかっていた。質を均一にする補助具が用意されていた。たたら台が小さく、たたら板が不安定だった。型紙が方眼紙で水分を含んで膨れていたのので材質を変えるとよい。
- ・たたら板を置く位置にテープを貼ると、生徒自身の判断で同じ大きさに作れるようになる。
- ・型紙やボールなど生徒が扱いやすい物を取り入れて、どの生徒も主体的に取り組んでいた。ボールやたたら板がずれていたの、すべり止めがあるとよい。

③ 生徒にとってわかりやすい具体的な目標を設定

- ・仕事の終わりを生徒自身が判断できるように、「いくつ作ったら」や「この仕事が完了したら」などわかりやすくしたい。報告や質問が目標の生徒も多いが、それは主体的な姿となるのか。
- ・見本は完成品ではなく、実際に作っている段階の実物や写真の方が判断しやすく、質のよいものを作ることにつながるのではないかと。写真ならポイントを書き込むこともできる。

④ 単元としての盛り上がりを作る

- ・できあがった製品を展示して目標数に近づくのが実感できるようにしたり、励みにできるように単元後に打ち上げを行ったりするのもよいと思う。
- ・いくつ作るかという目標ではなく、質を重視した授業作りであった。生徒には数の方がわかりやすく盛り上がりやすいので、質にこだわりつつも数を意識できる授業にしたい。導入集会で各班が目標宣言し、中間報告会も行い、前日に決起集会をして、翌日に報告会をもつなど、適切な時期に各班の情報交換をして意識を高めていくと単元を通じて盛り上がりができると思う。

⑤ 教師の関わり方を工夫する

- ・指導案では言葉かけの記載が多かったが、実際の授業では少なかった。手立てや留意点は、実際に行っていた道具や補助具の工夫をもっと記載すると良い。丁寧な仕事を意識できるように客目線での言葉かけが見られるなど生徒に合わせての関わり方であった。
- ・教師が生徒の模範となり一生懸命に働く姿を見せていてよかった。生徒が主体的に取り組んでいるからこそその教師の姿であろう。陶芸班は感覚的な判断が多くなりがちなので、できたときにしっかり褒めることが大切であり、それができていた。

<講師助言>

[はじめに]

- ・テーマに沿ってグループで協議する方法は全員参加型ですばらしい。時間が少なく一言の発表になってしまったのは残念だった。この後の話をそれぞれの作業班に置き換えて聞いてほしい。

[学習指導案について]

- ・指導案は作業学習の基礎基本が忠実に書き込まれていて、授業作りも細やかに行われている。主体的に取り組む姿を求めて書かれていてよい。
- ・日程計画が大まかであったが、素焼きや本焼きの時期を決めて、この時期までに何をどれぐらい作るかを明記し、それが達成できたという積み重ねを大切にしたい。一人一人の目標はとても重要である。日程計画に具体的な目安があると個人目標も立てやすい。結果的に数が変わってしまってもよいので目安を入れた方がよい。
- ・単元の盛り上がりが協議テーマのひとつであった。陶芸班の単元で生徒たちが盛り上がるのは、素焼きを出したときと本焼きを出したときであろう。その一つ一つが単元の区切りとなり、盛り上がりとなると思うので、そういった点でも日程計画はできるだけ詳しく書いていきたい。
- ・指導案には素焼きの後は後日に決めると書かれているが、あらかじめ生徒の得意なことで担当を分けておきたい。ある程度固定し、同じ仕事に取り組むと習熟して自分で取り組めるようになる。主体的な姿につながるので、通常以外の活動にも担当があるほうがよい。
- ・単元名が具体的でわかりやすい。しかし、「〇〇店の販売会に向けて製品を作ろう」では、どの作業班にも共通するので、今回の主要製品や新製品を入れて陶芸班ならではの単元名にしたい。また、製品を作ろうで終わらず、販売会を成功させることが目標なのでそこまで入れた単元名や単元目標にしたい。
- ・単元目標の「返事や報告等が相手に伝わるように行うことができる」は、今日の授業を見ていると疑問に思う。生徒一人一人には、先生や友だちにどのように伝えてほしいかというものがあるうが、単元の目標として大きく掲げなくても良いのではないかな。
- ・生徒の様子と手立てが丁寧に書かれていた。手立ての記載で「言葉かけ」や「約束する」が多いが実際の授業では生徒自身が黙々と取り組んでいた。手立てを書くときは教師の言葉かけや事前確認が多くなりがちなので、道具立てや場の設定などの手立ても入れていくよう心がけたい。

[授業や協議について]

- ・陶芸の特性として、素焼きと本焼きの必要があり、できあがるまで長くて見通しが持ちにくい。これは農工班や栽培班も同じである。農工班（栽培班）の植えから収穫（開花）までの期間の長さや陶芸班の工程の多さによる見通しの持ちにくさをどうするかはそれぞれ工夫が必要である。同時に、収穫、開花や窯出しの感動という良い特性も生かしていきたい。
- ・本日、作業室に入るとどんどん自分から準備していた。戸惑いがないのでいつも通りの姿なのであろう。授業開始は、号令をかけて教師が簡単に今日の説明をして作業に入った。5分くらいで今日も頑張ろうと話して、準備した勢いのまま製作に入れて良かった。始まってから担当職員が個別に必要なことを話していたので、はじめの会は短時間が良い。終わりの会は、それぞれの頑張ったところを発表してみんなを確認をした。出来高表での確認があっても良いかと思った。
- ・棚が整理されていて成形されたものが見えてわかりやすかった。各棚に製品名が書かれているとさらにわかりやすくなるであろう。
- ・道具や補助具は、準備の段階でそれぞれのトレーに必要な物がありスムーズに取り組んでいた。重たい石膏型の代わりに、手回しろくろの上にネット付きボールを載せて丸みをつけたていた。他にもいろいろな型が用意されていた。扱いやすい道具や補助具の工夫がたくさん見られた。

- ・みんながたたから製品を作るのはすごい。よくある方法は、ある生徒が大きなブロックから均等にたたらを切り出して、それをみんなが使っていく方法だが、今日は自分でたたらを作ってから成形していた。台が動いて上手く作れない生徒がいたので滑り止めで安定させたい。
 - ・一人一人に応じた具体的な目標があった。Bさんは3個目標で今日は5個できた。担当教師に褒められすごく嬉しそうにしていた。Bさんはとても満足気で、片付けの時に「先生、これはここでよいですか」といつもは言わないことを言っていたようで、褒められるとすごく意欲的になることを再確認する場面であった。
 - ・高さを揃えることが目標だった生徒が、揃っているか聞かれたときにどちらか分からない様子だった。もし確実にないなら、ボールの縁のところに水平ラインを引いてネットの上から見て確認できるようにしてはどうか。生徒が自分で見て判断し、自己評価できる工夫が大切である。また、教師への確認が多い生徒なので担当教師の隣が良いように感じた。そうすれば横を見るだけで素早く確認ができスムーズになるのではないかな。
 - ・教師の関わり方では、生徒が自分でできる状況が整っているので、教師は自分の仕事をやりながら生徒の支援をしていた。まさに作業学習の目指すべきところである。教師も作業班の一員なのでこうでありたい。ただ、作業にのりにくい生徒や別の仕事を探したい生徒もいた。支援が多く必要な生徒を担当すると教師が製品作りに参加することは難しい。その生徒に合った仕事で、一人で取り組める状況が整えられれば支援は減り、教師は支援だけでなく、製作者としても活躍できる。どの生徒にも主体的に取り組む姿を求めている。
 - ・教師が行っていることをできるだけ生徒にやってもらいたい。たとえばエプロンの持ち帰りを教師が伝えていたが、係の生徒を決めれば生徒の役割にできるであろう。片付けの確認も道具係を決めて任せれば、係の生徒が確認して必要なら整理整頓もしてくれるのではないかな。今まで教師が行っていたことでも係仕事にすると生徒が担えることも多い。ぜひ、その方向で考えてほしい。
- [今後に向けて]
- ・より質の良いものを製作することが作業の根本である。理由は、「障害があるからこの程度のもの」と思われるか、「これほど良いものが作れるとはすごい」と思われたかで、その生徒たちの評価となるからだ。どの作業班も、より質の高いものを生徒自身の手で作ってほしい。
 - ・陶芸班は製品完成に時間がかかるので、とみよう祭の翌週から次の販売会に向けて取り組んでいると書かれていた。しかし、次の販売会に向けて取り組み始めている班はほかにもあった。逆に、染色班はとみよう祭単元でとった注文製品を納品する単元であった。学部で単元の組み方を整理した方がよい。
 - ・場の設定は、動線に気をつけながら一体感ある配置にしたい。お互いの仕事ぶりが見られる配置で、材料や完成品が見られるように工夫する。作業場全体で働く雰囲気を作り上げたい。
 - ・準備や後片付けもできるだけ生徒自身が行う。道具は一人一人に合ったものを用意し、長時間作業ができるものにする。できないことを生徒のせいにならない。そんなときは、重いものを軽くしたり、道具や補助具を改良したり、より合った活動を再考したりと工夫する。作業能力が高い生徒にも道具や補助具は必要である。教師の言葉かけは過不足なく行いたい。教師の称賛や評価はすぐにその場でして、生徒のモチベーションを高めるように心がけたい。

(2) 各作業班のまとめ

高等部各班のまとめとして、5つの観点についての手立てと成果を以下に載せる。

< 陶芸班 >

①作業に取り組むための環境
・ 道具や材料の置き場を決めて、手際よく準備や片付けができるように確認をしておくことで、どこに何があるか、わかりやすくなり、室内もきれいになった。
②取り組みやすい道具、補助具
・ たたら板とたたらカッターを使用したことにより、粘土を伸ばす時間を短縮することができ、製品作りに時間を費やすことができた。
・ 見本となる完成品や写真を見ることで自分の作りたい色や形を想像しやすくなった。
③生徒にわかりやすい具体的な目標を設定
・ 完成している製品を参考にすることでよりよい製品を作る意欲が向上した。
④単元としての盛り上がりを作る（販売会等）
・ 季節を意識した製品や色合いを考えて作るようにすることで、多くのお客様が手に取ってくださり、生徒の励みとなった。
・ 昨年度の販売した製品数などを伝えることで、よりたくさん作ろうという意識づけができた。
⑤教師の関わり方を工夫する
・ 必要に応じて教師と相談しながら取り組むことで、効率的に作業に取り組むことができた。
・ 1回の授業での目標個数や仕事内容を示すことで、見通しをもつとともに自分の作業がどれほど速くなっているか実感することができた。

< 木工班 >

①作業に取り組むための環境
・ 工程ごとに道具箱や補助具置き場、材料置き場を用意することで、道具や補助具、材料を自己管理することができ、準備から片付けまでを自分で進めることのできる生徒が増えた。
②取り組みやすい道具、補助具
・ 組み立てに使用する部材を必要な本数毎にまとめておくことによって、色の異なる部材を使用してしまう間違いがなくなったり、部材を選ぶ時間が短縮されたりしたので、効率よく作業を進めることができた。
③生徒にわかりやすい具体的な目標を設定
・ 目標製作数を貼りだしたり、完成個数をすぐに把握できるような出来高表を用意したりすることで、見通しをもって作業に取り組むことのできる生徒が増えた。
④単元としての盛り上がりを作る（販売会等）
・ 工程ごとや製品種ごとの目標だけでなく、木工班全体での目標製作数を具体的に示すことで、単元としての盛り上がりと木工班の一体感を高めることができた。
⑤教師の関わり方を工夫する
・ 教師も生徒と一緒に一つ一つの工程を担当し、作業姿勢や作業技術の手本を示したことで、生徒全員が作業時間いっぱい自分の仕事に取り組むことができた。

< 手芸班 >

①作業に取り組むための環境
・製品別、工程別に材料を分類し、定位置に置くことで視覚的にわかりやすくなり、生徒が自ら進んで材料を取り出し、活動することができた。
②取り組みやすい道具、補助具
・ピクチャーシートや手順表、拡大見本を作成することで、自ら活動したり作業効率をあげたりすることができた。
③生徒にわかりやすい具体的な目標を設定
・織りでは段数、刺し子では縫い目の本数、ミシンによる製品作りでは製作目標数を達成することを励みにして作業に取り組むことができた。
④単元としての盛り上がりを作る（販売会等）
・当日の活動内容の確認や販売に向けての接客等の練習を積み重ねることで、徐々に気持ちを盛り上げることができた。
⑤教師の関わり方を工夫する
・作業中の言葉遣いや態度など、具体的に取り組む姿勢について共通理解をし、統一した指導を行うことで、生徒が「仕事」という意識をもって活動することができた。

< 染色班 >

① 作業に取り組むための環境
・道具や材料の置き場を一定にしたり、仕事順を明記したりすることで、担当の仕事に進んで取り組むことができた。
・生徒同士の働く様子が見られるように配置し、みんなで働く雰囲気を作り上げることができた。
② 取り組みやすい道具、補助具
・補助具付きのスライドカッターやシュレッダーを使用して、一人で紙の切断や細断ができた。
・追加用紙料を一定にして、できあがりの紙厚が均一になった。
③ 生徒にわかりやすい具体的な目標を設定
・生徒に合わせて、材料がなくなるまでや目標数を目安にしたのでどの生徒も目標が理解できた。
・出来高表を掲示し完成ごとに記入して、進捗状況を確認しながら仕事に取り組むことができた。
④ 単元としての盛り上がりを作る（販売会等）
・毎日スローガンを唱和することで単元目標を全員が意識でき、目標通りに全販売会が完売できたので、毎回、達成感いっぱいの単元となった。
⑤ 教師の関わり方を工夫する
・どの生徒も一人で仕事に取り組める状況を整える中、教師は模範となるように担当の仕事に精一杯取り組むことで、仕事場の雰囲気を高められた。
・言葉遣いや報告連絡などは、各担当教師が必要となったタイミングで指導することで、丁寧になるなど成果が見られた。

< クラフト班 >

①作業に取り組むための環境
・一人一人にかごを用意し机上を整理したり、机の配置を変更したりしたことで、活動に集中して取り組むことができる生徒が増えた。 ・実態に合わせた仕事分担ができたので、より主体的に活動に取り組む姿が見られた。
②取り組みやすい道具、補助具
・個々に合わせた手順表を用意したことで見通しをもち、一人で作業に取り組めることが多くなった。 ・補助具を活用したことで、材料のクラフトバンドを一定の長さに切ったり、正確に編んだりすることができ、製品の質を高めることができた。
③生徒にわかりやすい具体的な目標を設定
・作業日誌に次回の目標を記入する欄を追加したことで、一人一人が目標を意識して取り組む姿が見られるようになってきた。
④単元としての盛り上がりを作る（販売会等）
・出来高表を見えやすい場所に掲示し、反省会で個数を確認したことで、販売会への意欲を高めることができた。 ・みんなで協力して看板作りに取り組み、みんなで店を作り上げるのだという一体感が生まれた。
⑤教師の関わり方を工夫する
・教師が手本となるような言葉遣いを徹底したことで、生徒が場面に合わない言葉遣いをしたときに、正しい言葉遣いをするように伝えやすい雰囲気が出た。また、生徒が自然と言葉遣いに気をつける様子が見られた。

< 工芸班 >

①作業に取り組むための環境
・同じような製品を作る生徒ごとにグループ編成を行ったことで、目標を共有しやすくなった。 ・予定表を掲示したことで、販売会までの見通しをもち計画的に取り組むことができた。
②取り組みやすい道具、補助具
・市販のビーズ皿にフェルトを貼りビーズが散らばらないようにしたことで、作業に集中できるようになった。
③生徒にわかりやすい具体的な目標を設定
・製品ごとの目標製作数と製作する担当者を明示したことで、責任感をもって取り組む姿が多く見られるようになった。
④単元としての盛り上がりを作る（販売会等）
・互いの製品を見合う機会を設けたことで、自身の製作へのモチベーションが高まり、工芸班全体でどのような製品を販売するのかを理解することができた。
⑤教師の関わり方を工夫する
・生徒自身が判断する機会を作るために適度な言葉かけにとどめたことで、わからないことを手順表などで確認し、自分で判断して活動できる生徒が増えた。

< 農工班 >

①作業に取り組むための環境
・加工製品作りでは、調理器具や材料を整理し、活動場所を固定したことで、自分のやるべき仕事分かり作業効率が上がった。 ・外作業では、まだ収穫できないものに印を付け、どれを収穫したら良いかわかるようにすることで手際よく作業ができるようになった。
②取り組みやすい道具、補助具
・外作業では、畝作りの時に溝を掘る場所がわかるようにロープを張ったり、苗植えの時に植える位置に印を付けたりすることで、生徒が自分の作業に取り組むことができた。
③生徒にわかりやすい具体的な目標を設定
・ケーキの目標本数や、漬物の量をホワイトボードに掲示することで目標を意識することができた。 ・収穫する範囲やマルチを張る畝の担当を決めることで、責任をもって作業に取り組むことができた。
④単元としての盛り上がりを作る（販売会等）
・野菜や加工製品の試食会を定期的に行い、食べた感想を生徒同士で共有した。もっとたくさん作りたい、売れる製品にしたいという気持ちを高めることができた。 ・自分たちが作業してきた成果が分かるように出来高表を作り、それを見ることで意欲を高めることができた。
⑤教師の関わり方を工夫する
・教師も役割を決め一緒に作業をすることで、分からないことがあったらすぐに質問ができる雰囲気を作ることができた。

< 栽培班 >

①作業に取り組むための環境
・作業に必要な道具を種類ごとにまとめ、置き場所に写真と名前を付けることで、自ら進んで道具の準備や片付けに取り組めるようになった。
②取り組みやすい道具、補助具
・手順表を用意することにより、一人で花苗用の土作りや花苗の移植の活動に取り組むことができるようになった。また、移植用の小さなスプーン等を用意することにより、細かな作業ができるようになった。
③生徒にわかりやすい具体的な目標を設定
・販売会に向けて、販売目標数と生産数を掲示することで目標数を意識できるようになった。販売会に向けて見通しをもてるようになり、意欲が高まった。
④単元としての盛り上がりを作る（販売会等）
・販売会ごとに全体の売り上げ目標や個人目標を作成することで販売活動に対する意欲が高まった。また、カウントダウンカレンダー等を作成することで販売会への意欲が高まった。
⑤教師の関わり方を工夫する
・教師が言葉かけのタイミングや量を工夫することで、報告や質問が自分からできるようになった。

(3) 今年度のまとめと課題

今年度は、昨年度の課題点改善を図りながら「生徒の主体性」に重きを置いた授業実践の充実を目指し研究に取り組んだ。

高等部全体で再度「主体的に取り組む」ということについて「活動内容がわかり自分から取り組む姿であり、持てる力を十分発揮している姿」と確認した。生徒個々の実態によって目指す主体性は異なるが、それぞれの生徒に合った作業内容や支援方法を検討していくことで、一人で取り組める場面や自ら意欲的に取り組む場面などを増やしていくことを共通理解し、授業実践に取り組んだ。また、作業連絡会では新たに「作業連絡会内容シート」を用いて、観点を明確にした話し合いの場を設けることができた。

授業研究会では、講師として千葉県教育庁教育振興部特別支援教育課指導主事、小倉京子先生を学校に招き、助言を受けることで、授業の質の向上を目指すことができた。

<成果と課題>

- ① 一人一人にあった作業学習実践のため、5つの観点について各作業班で單元ごとに話し合いを設け、授業づくりを行った。

成果	・「主体的」をキーワードに授業内容や支援方法などについて意見交換を行う場になり、反省点を次の單元に生かすことができた。
課題	・5つの観点のうち「單元としての盛り上がりを作る」に関しては、捉え方の再検討が必要である。

- ② 作業連絡会を年2回実施し、学級担任と作業担当者間で生徒の課題の整理と共通理解を図った。

成果	・今年度も全生徒を対象にして作業連絡会を行った。時間が確保されている中で生徒の様子を確認し合えるのでよかった。「作業連絡会内容シート」によって話し合う内容が明確になっており、短時間でも効率的な話し合いができた。また、話し合いの内容が記録として残り、1回目と2回目の比較や成長も確認しやすかった。
課題	・作業連絡会内容シートについて今年度は自由作成だったが、生徒全員分作成し、担任と作業担当者双方の手に渡るようにした方がより有効活用ができる。

- ③ 授業研究会（部内研・全校研）

成果	・5つの観点に沿って「主体的」をキーワードにして協議が行えたので、まとまった話し合いになった。全作業班を講師に参観してもらい、具体的に実践しやすい助言をいただいた。
課題	・全校研でのグループ協議後の発表形式を改善し、より多くの意見を全体で共有できるようにする必要がある。

<次年度の方向性>

今年度の研究を通して、特にとみよう祭終了後から次の單元が始まるまでに間が空いてしまっており、「単元の盛り上がり」や「生徒の意欲」の継続が難しくなっていることがわかった。そのため、次年度も引き続き作業学習で取り組み、この期間の單元計画の再検討などを行っていきたいと考えている。

次年度は、栄特別支援学校との分離によって生徒数が減少し、それに伴って作業班数も変更になるが、今年度までに培ってきた「生徒の主体性」を目指した授業作りを継続し、更に生徒一人一人に合わせた作業内容や支援方法を工夫し授業実践に取り組んでいきたい。

資料 作業連絡会内容シート

(1) 第1回(前期実施)

平成28年度 第1回作業連絡会 内容シート

作業班名 (班) 生徒名 ()

○作業班担当者から

1. 生徒が担当している作業内容、作業の様子

2. 作業での目標、目指す姿(1日単位、単元単位、前期 の目標)

3. その他

○担任から

1. 作業で身に付けてほしい力、求める姿

2. 実習先、卒業後の進路について

3. その他

(2) 第2回(後期実施)

平成28年度 第2回作業連絡会 内容シート

作業班名 (班) 生徒名 ()

○作業班担当者から

1. 生徒が担当している作業内容(前回と変わっていれば)

2. 生徒の変容、目標の達成度

3. 3学期の目標

4. その他

○担任から

1. 学級での変化

2. 実習先からの評価、課題

3. その他